

## 2018-2020 年度 地域連携活動報告書

連携先名称：公益財団法人雪だるま財団

協定締結日：2020年6月1日

活動状況：継続中

連携先窓口：伊藤親臣副理事長

活動資金：研究室予算

担当教員（所属）：馬場正（農学科）

活動体制（単位）：研究室

関連教員（所属）：

吉田実花（農学科）、多田耕太郎、入澤友啓、小泉亮輔（以上デザイン農学科）、辻井良政（農芸化学科）

活動目的：

公益財団法人雪だるま財団は、再生可能な資源である雪冷熱を活用した「雪室」による食品の保蔵に関する研究に取り組んでいる。雪室は、雪の冷気で低温かつ高湿度で安定的な貯蔵環境をつくることができる。電気をいらないため、自然災害に強い貯蔵庫でもある。東京農業大学は、その特性をいかし、米や傷みやすい果物、熟成肉等の長期間低温貯蔵や食味の検証など研究面から支援をしている。さらに、雪深い中山間地域をフィールドとして学生が経験を積むことにより、地域社会の抱える課題を考えられる人材を育成する、まさに本学の教育理念である「実学主義」を具体化できる連携となっている。

活動内容・成果：

伊藤親臣氏は、2018年から4月1日から農芸化学科客員教授。

2018年9月18日に伊藤親臣氏による講演会「雪室貯蔵食品の現状と品質改善について」を実施。

2019年7月10日第14回 雪の市民会議 in 東京農業大学を実施。シンポジウム、情報交換会を合わせ、延べ250人以上の参加。

[https://www.nodai.ac.jp/application/files/6415/6135/9570/190624\\_news01\\_pdf1.pdf](https://www.nodai.ac.jp/application/files/6415/6135/9570/190624_news01_pdf1.pdf)

2020年は雪だるま財団から紹介を受けた雪室でニンジン、クリを貯蔵し、品質変化を調査した。

課題・改善点：

特になし。